

令和2年度 相談支援従事者現任研修 事前課題について

■ 本研修及び事前課題の目的

本研修は、『自らの行動を客観的にふり返ることができ、地域を基盤としたソーシャルワークが行えるようになる』をテーマに、研修を通して受講者同士で実践事例を共有し、今後の実践に必要な気付きを得て、スキルアップを図ることを目的としています。まずは自身でふり返るとともに、研修の中で活用する資料として、以下の課題に取り組んでください。なお、この事前課題は、現任研修カリキュラムの一環として設定されています。

■ 課題作成上の留意事項

- ・事前課題一覧は、福祉のまちづくり研究所研修センターホームページよりダウンロードしてください。URL→ <http://www.hwc.or.jp/kensyuu/?cat=22>
初任者研修も同ページに掲載しておりますので、間違いないようにしてください。
- ・各課題様式をダウンロードした後、留意点等を確認しながら作成してください。

■ 課題等提出するもの

①	書式1(事前課題1 事例)
②	書式2(事前課題2 エコマップ)
③	書式3-1(事前課題3-1 地域変革のためのヒアリングシート)
④	書式3-2(事前課題3-2 社会資源について)
⑤	書式4(事前課題確認書)

■ 課題の提出について

提出期限： 令和2年12月 24日(木) 正午必着

- ・未提出、提出期限を過ぎたものは一切受け付けず、研修の受講ができませんので、ご注意ください。
- ・提出書類は、上記⑤の書式4にて確認してください。
- ・課題に沿って書かれていない場合は再提出をしていただく場合がありますので、余裕を持って提出してください。

■ 提出方法

- ・提出方法は郵送のみです。※提出物の着・不着はご連絡いたしません。
- ・郵送料金に不足がないようにしてください。不足の場合は返送いたします。
- ・提出書類は、ホッチキスでは留めず、クリップで留めて提出してください。
- ・提出書類は、全てA4用紙、片面印刷でお願いします。

【郵送先】 〒651-2181 神戸市西区曙町 1070

総合リハビリテーションセンター 福祉のまちづくり研究所 研修センター
「令和2年度相談支援従事者現任研修 事前課題在中」朱書き

■ 裏面に各課題の留意事項を記載しておりますので、必ず確認してください。

事前課題1 事例

【演習1(個別相談支援(意思決定支援))】

演習1では、本人を中心に支援してきた中で、意思決定支援に着目し、自身の支援のふり返りや他者の支援に触れ、どういう技術(視点や価値観含む)が必要かを、グループ内で考えていきます。

【作成する際の留意点】

- 自らが担当した個別ケースについて、様式1を作成してください。
- 記入例に記載されている記入する際のポイントをよく読んだ上で、作成してください。

【事例を選ぶ際の留意点】

- 必ず受講者自身が関わった事例を選んでください。
- 基本相談、計画(障害児)相談支援、どちらでの関わりでもかまいません。
- 提出事例に関しては、地域資源を活用し、支援がいったん落ち着いた事例を選定してください。
- 提出に際しては、必ずご本人・ご家族に説明し了承を取った上で、提出してください。また、個人が特定(推定)される表現(氏名・生年月日・住所・利用事業所名・電話番号等々)は、削除・修正してください。

【支援がいったん落ち着いた事例のイメージ(例えば)】

- ①本人の希望や目標が達成された。
- ②急性期の集中した相談支援を経て、頻回なモニタリングがなくても、他の機関の支援や関わりによって安定した生活を継続できる目途が立った。
- ③複合した課題が解きほぐされ、関係機関の連携による対応が可能となった。
- ④①～③の条件に当てはまらないが、見立てや手立ての変更の必要性が低くなり、生活が安定してきた、落ち着いていると判断できた。

事前課題2 エコマップ

【演習2(チームアプローチ／多職種連携)】

演習2では、本人を中心としたチームを形成し、それがチームとして機能しているかをふり返り、機能させていくために必要な技術について、グループ内で考えていきます。

【作成する際の留意点】

- 事前課題1で使用した個別ケースについて、様式2を作成してください。
- 記入例(エコマップ(図のみ))を参考に作成してください。

事前課題3-1 地域変革のためのヒアリングシート／事前課題3-2 社会資源について

【演習3(コミュニティワーク)】

演習3では、本人が地域で暮らし続けていくために、相談支援に必要とされる地域の現状を把握する方法(アセスメント・課題分析)について、グループ内で考えていきます。

【作成する際の留意点(事前課題3-1)】

- 事前課題1で使用した個別ケースについて作成してください。
- この個別ケースの地域とのつながりや社会関係性等について、わかる範囲で記入してください。不明なところは記入する必要はありませんが、記入できなかつた理由は考えておいてください。

【作成する際の留意点(事前課題3-2)】

- 自事業所所属地域の地域の資源等の状況について、記入してください。
- 自分で把握できていない部分については、各関係機関等に問い合わせた上で完成してください。

【演習4(グループスーパービジョン)】

- これまで学んだことをベースにグループスーパービジョンを行い、気づきを深めていく中で、現場に戻ってから取り組んでいく必要があることについて、グループ内で考えていきます。事前課題はありません。

記入例

イニシャル:	性別:	年齢:	障害名(程度)・区分:
福祉サービスの利用状況: 計画相談支援、就労継続支援B型			
この事例を提出した理由 自分自身で振り返ってみて、この事例であらためて考えたいことをできるだけ具体的に記入します。 例)自分の〇〇の支援が間違っていないか確認したい 例)利用者(家族)へのかかわり方について検討したい			
主訴(相談に来た理由、どうしたいか) 相談にいたった経緯、紹介経路、本人・家族の主訴を具体的に記入します。			
利用者の特徴 利用者をイメージできる情報を記入します。 ・身長、体重(体格) ・性格(表情豊かでよく話す、気弱で気持ちをなかなか言えない、些細なことでも高圧的になる 等) ・興味関心(お菓子が好き、よく出かける、テレビの〇〇を見る 等)			
【生活歴(どのような生活を送ってきたか、楽しかったこと、興味を持ったこと、悲しかったことなどのエピソード)】 利用者がどのような生活を送ってきたかを理解できるように記入します。 ・出生から現在までのエピソードを記入します。 ・今回の事前課題のために、あらためて利用者に聞き取る必要はありません。			
病歴:			
社会的状況(家族関係・友人関係・学校・職場・福祉サービス利用など) 利用者を取り巻く社会環境を理解できるように記入します。 ・生活環境、家族関係、家族以外の関係、余暇の過ごし方、嗜好など			

①誰が困っていたのか(本人・家族・学校・職場等) * 複数可

本人・家族・学校・職場等、それぞれの困っていた内容について簡潔に記入します。

②いつ頃から困ったことが生じたのか

本人・家族・学校・職場等、それぞれについて簡潔に記入します。

③主訴に対して様々な情報から、あなたはどのように解釈したか(見立て)

④あなたはどのように支援をしてきたか(支援経過)

⑤意思決定支援で工夫したこと

⑥支援を通して本人の生活がどう変化したか

事例報告書

事例提供者氏名:

書式1

イニシャル:	性別:	年齢:	障害名(程度)・区分:
福祉サービスの利用状況:			
この事例を提出した理由			
主訴(相談に来た理由、どうしたいか)			
利用者の特徴			
生活歴(どのような生活を送ってきたか、楽しかったこと、興味を持ったこと、悲しかったことなどのエピソード)			
社会的状況(家族関係・友人関係・学校・職場・福祉サービス利用など)			

①誰が困っていたのか(本人・家族・学校・職場等) * 複数可

②いつ頃から困ったことが生じたのか

③主訴に対して様々な情報から、あなたはどのように解釈したか(見立て)

④あなたはどのように支援をしてきたか(支援経過)

⑤意思決定支援で工夫したこと

⑥支援を通して本人の生活がどう変化したか

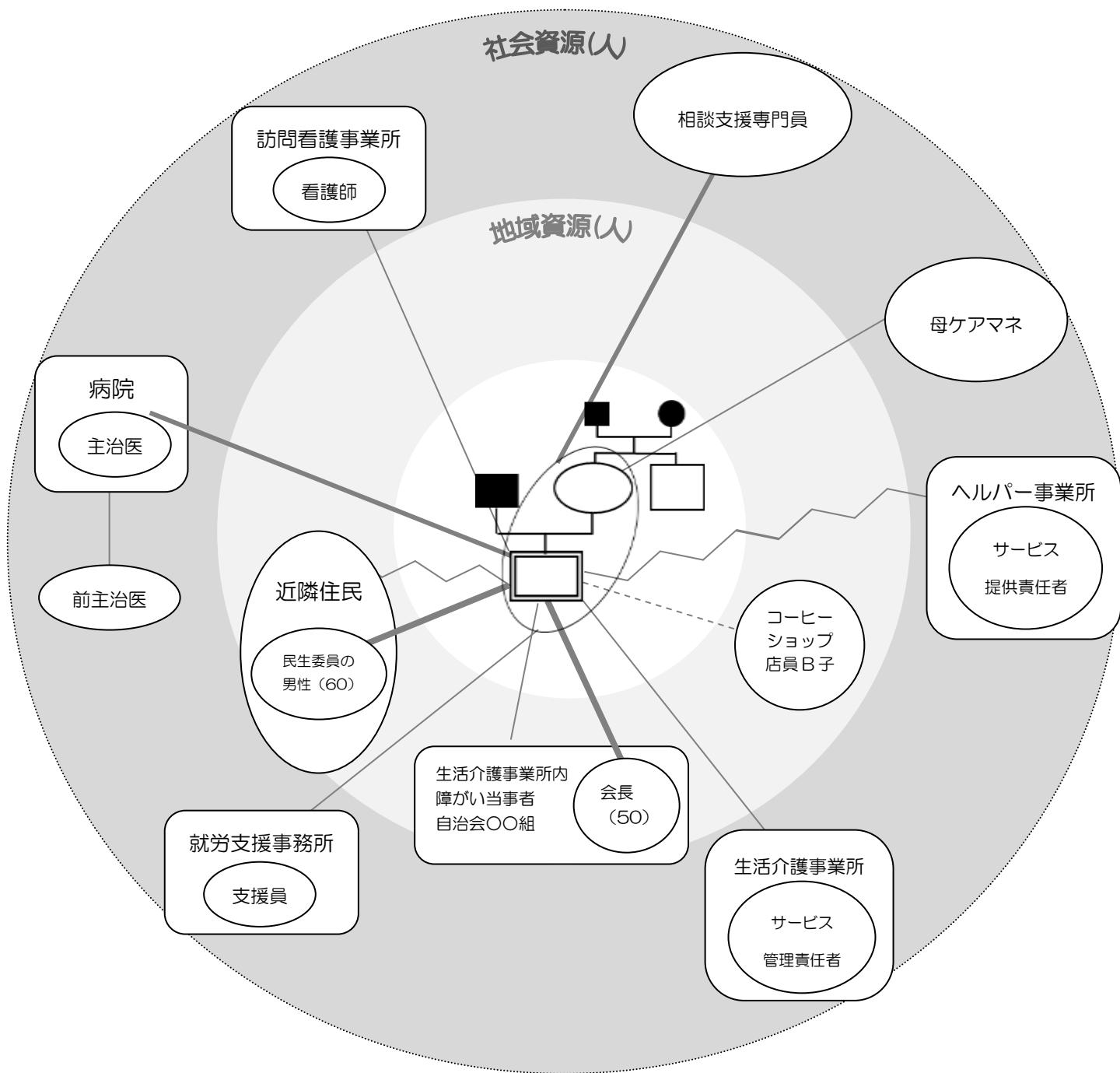
記入例

書式 2

エコマップの環境
を整えるために、工夫したこと

担当者会議の進め
方はどのようにし
ているか、どんな工
夫をしているか

エコマップ



<関係> 弱い ←

→強い

葛藤

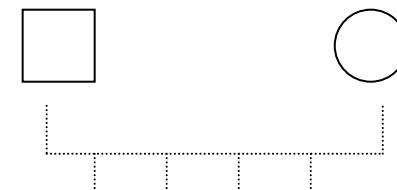
エコマップ

エコマップの環境
を整えるために、工夫したこと

担当者会議の進め
方はどのようにし
ているか、どんな工
夫をしているか

社会資源（人）

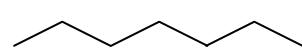
地域資源（人）



<関係> 弱い ←

→強い

葛藤



利用者と地域資源（人）の関係性

利用者と社会資源（人）との関係性

相談支援専門員と地域資源（人）および社会資源（人）との関係

この課題を作成して、気付いたこと

地域変革のためのヒアリングシート（利用者から見た地域の状況）

【1】利用者が参加・所属している地域組織または参加したがっている組織について

組織の名前は？	
どの程度の「参加」か？	
参加しやすい条件整備がなされているか？	
どういう条件が整えば、もっと参加しやすくなるか？	

＜注＞自治会・趣味グループ・学校・ファンクラブ・生涯学習グループ・各種〈連続〉講座・ボランティアグループ

【2】利用者の交友相手〈友達〉について

どんな関係の人	
利用者の資源になりうるか	
どうしたら資源になるか	

＜注＞井戸端会議の相手・同窓生・趣味友達・講座友達・級友

【3】利用者が所属している当事者組織について

どんな組織に属しているか	
利用者同士の問題解決のために十分機能しているか	
もっと機能するためには、どういう支援が必要か	
利用者はどんな役割を果したらいいか	
その組織は利用者にとってどんな意味があるか	

提出期限：令和2年12月24日（木）正午必着

【4】利用者に（福祉的に）関わっている人や組織・企業〈商店〉・隣人について

どのような関わりをしてくれているか	
もっと進んだ関わりをしてもらうには、どのような条件が整備されたらいいのか	
こちらとしてどのような努力をしたらしいか〈どのような仕掛けを施したらいいか〉	

＜注＞行きつけの商店の主が、店頭で親切にしてくれる程度でもいい

【5】利用者が見込んでいる相手〈相談に乗ってくれたり、困った時助けてくれる人〉・行きつけの商店・診療所の医師・隣人について

その利用者が見込む相手はどういう条件があるのか	
利用者が見込んでいる人が、見込まれたことをきちんとしているか。	
していないとすれば、それはなぜか	
見込まれたことをその人が実行するには、どういう働きかけが必要なのか。	

＜注＞なぜその人を見込んでいるのか

【6】利用者の親族で、利用者が頼りにしている相手について

その相手は、利用者の期待に添うように行動しているか	
していないとすればそれはなぜか	
どうしたら期待に添うように行動するようになるか	
他の親族はなぜ頼りにならないのか	
どうしたらもっと頼りになる親族になるのか	

提出期限：令和2年12月24日（木）正午必着

【7】利用者の〈これから戻る〉近隣は、利用者にとっていい近隣か

どのように頼りになるか	
どのように頼りにならないか	
どのような人材が存在しているか 〈世話焼き・口利き・など〉	
もっと頼りになる近隣にするにはどうしたらいいか	

【8】利用者の周囲で、活用できそうな地域資源はあるか。

どんな資源が分布しているか〈いわゆるボランティアや民生委員、福祉推進員だけでなく、世話焼きさんや、保健福祉のプロ、各種公共機関なども〉	
それぞれどのような資源性を持っているか	
それぞれ利用者にどのような資源になりうると思うか	
それらの資源を利用者に振り向けるにはどのような仕掛けが必要か	
それがより強力な資源になるには、どのような仕掛けが必要か	

【9】利用者にとって「隠れた資源」となっているもの〈利用者を元気にさせているもの〉について

あるとすればそれは何か	
-------------	--

＜注＞特に動植物や自然環境、日常生活の各種グッズ、遊び・スポーツなど、人間以外の資源に着目。

【10】利用者は地域に対して、どんな資源性を有しているか

資源性とそれが機能している対象を羅列	
利用者が頼りにしている相手に対して、どんな資源性を発揮しているか	
利用者が潜在的に有している資源性は何と何か	
それぞれ誰に対して資源となりうるか	
利用者の資源力を増強させるには、どんな支援が必要か	

<注>隣人の相談相手、同じハンディを持った人の相談相手、趣味グループなどで、ユニークな働きをしている、など

【11】利用者にとっての資源同士のネットワークの状況はどうか

これまで挙げられた資源相互の連絡はどの程度なされているか。お互い〈資源同士〉、その利用者に関わっていることをどの程度承知しているか	
もっときちんとネットワークができるためには、どのような支援が必要か	

【12】利用者の自宅〈居住場所〉は、どのような資源となるか

資源を発掘・活用するのにどのように適しているか、または適していないか	
より多くの資源を発掘・活用するために、どんな環境整備が必要か。〈利用者のセルフケアマネジメント能力の開発。自宅の改造。支援者の確保。資金援助など〉	

【13】利用者のセルフケアマネジメント能力〈自分の状態を正確に把握・ハンディの中身も客観的に把握・その克服策の工夫・必要な資源を発掘・活用する資質等〉の評価をしてみよう

セルフケアマネジメント能力の評価	
------------------	--

<注>人に好かれる〈人が寄って来る〉・自分も人が好き・人の好き嫌いがない・困ったら困ったと言える・だれにも気軽に助けを求めることができる・助け手を上手に探し出す・お礼の言い方・仕方も上手・人間関係に長けている。自分もお返しができる・自分の〈他人に〉できることを上手に生かす・自分の意思をきちんと伝えられる・コミュニケーション手段を持っているし使える・どこへでも気軽に出かける・人を呼び込む場〈空間〉を確保している・セルフケアマネジメントのための支援者〈秘書?〉を確保している

書式3-2

提出期限:令和2年12月24日(木)

正午必着

整理番号	
事業所所在市町名	
氏 名	

※神戸市は区まで記入

1、街の特徴(人口、歴史、特産物など)

街の特徴(人口、歴史、特産物など)

2、手帳交付者数(令和2年3月末現在)

手帳種別	18歳未満	18歳以上
身体障害者手帳		
療育手帳		
精神保健福祉手帳		

3、計画相談支援給付費及び障害児相談支援給付費の支給決定者数(令和2年3月末現在)

給付別	支給決定者数
計画相談支援給付費	
障害児相談支援給付費	

4、地域移行支援及び地域定着支援の支給決定者数(令和2年3月末現在)

給付別	支給決定者数
地域移行支援	
地域定着支援	

5. 障害福祉サービス事業者等(市区町内)

※現状の欄には、所属している事業所がある市区町の相談支援体制、障害福祉サービスの現状について、その強みや弱みを客観的に評価し記入

(1) 我が街の相談支援体制(基幹相談、委託相談、指定一般、指定特定、指定障害児)

実施事業者	現 状(強みと弱み)
基幹相談支援センター	
委託障害者相談支援事業者	
指定一般相談支援事業者	
指定特定相談支援事業者	
指定障害児相談支援事業者	
上記の状況を踏まえ、我が町の相談支援体制から見える強みや弱み	
【強み】	
【弱み】	

(2) 我が町の地域生活支援体制(地域生活支援拠点等、その他市町独自のものも含む)

現 状

(3) 我が街の介護給付費関係

給付別事業者	現 状
居宅介護事業者	
重度訪問介護事業者	
同行援護事業者	
行動援護事業者	
重度障害者包括支援事業者	
短期入所事業者	
生活介護事業者	
療養介護事業者	
施設入所支援事業者	
共生型サービス	

(4) 我が街の訓練等給付費関係

給付別事業者	現 状
自立訓練事業者	
就労移行支援事業者	
就労継続支援B型事業者	
就労継続支援A型事業者	
共同生活援助事業者	
自立生活援助事業者	
就労定着支援事業者	
共生型サービス	

(5) 我が街の障害児通所支援給付費関係

給付部事業者	現 状
児童発達支援事業者	【児童発達支援センター】
	【児童発達支援】
放課後等デイサービス事業者	
保育所等訪問支援事業者	
共生型サービス	

(6) 我が街の地域生活支援事業関係

実施事業	現 状
地域活動支援センター	
移動支援事業者	
日中一時支援事業者	
その他の事業	

(7) 我が街の医療機関(精神科病院、診療所、訪問看護ステーション等)

現 状

6 障害福祉サービス事業者以外の資源

(1) フォーマル資源(具体的に市が実施している独自のサービス等)

例) 通所施設の交通費助成

(2) インフォーマル資源(民間事業所やボランティア団体等が実施しているサービス)

例) サロン

7 我が町の第5期障害福祉計画及び第1期障害児計画の成果目標

(1) 第5期障害福祉計画

成果目標	成果目標に対する取り組み内容

(2) 第1期障害児福祉計画

成果目標	成果目標に対する取り組み内容

書式4

令和2年度 兵庫県相談支援従事者現任研修
事前課題確認書

項目をチェックし、漏れがなければ本書式と一緒に郵送してください。

課題1 書式1

課題2 書式2

課題3 書式3－1

課題3 書式3－2

提出年月日 ※提出期限：令和2年12月24日（木）正午必着

令和2年 月 日

整理番号 受講者氏名 印

上記課題の作成した内容を確認しました。

申し込み責任者氏名 印

※受講者ご本人が申し込み責任者の場合は、ご本人の氏名、押印をお願いいたします。